

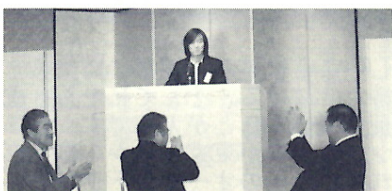
札響くらぶ

No. 45



発行／札響くらぶ(財)札幌交響楽団内
 札幌市中央区中島公園1番地15号(札幌コンサートホール内)
 HPアドレス <http://members3.jcom.home.ne.jp/sakkyoclub/index.html>
 Eメール sakkyoclubmail@yahoo.co.jp

「JOFC 第2回総会 in 山形」に参加して



「おはようございます」と少し晴れやかで明るい挨拶が飛び交う午前8時、千歳空港2階。上田会長をはじめ札響くらぶ10名が揃う。遠足気分では仙台空港まで機上の人となる。新装なる空港はJRで仙台駅まで25分。都市間バスで小1時間、高速道路に入りトンネル付近両側、峠は雪があり、小雨霽の中、宮城県から山形県へと向かう。常緑樹の中に紅葉から既に赤くなった樹木が混り北海道には見慣れない晩秋の景色を堪能。ホテルに入り前日入りしていた佐藤氏と会う。1時に山響ファンクラブの方々がホールで待機して下さるとのこと、一同早速山形名物の蕎麦を昼食にと近隣の有名店に入る。「箱そば」なるものを口にする。言葉を発する人もなく黙して食すること10分。すぐにタクシーで駆けつけコンサートに間に合う。先に到着していた松尾氏、深井氏両夫妻と合流し、総勢15名で第192回定期演奏会を聴く。八百席のホールで演奏2日間、人口25万人の都市でチケット完売。ほぼ満員のホールで若き飯森氏の指揮にて楽員48名、客演9名のステージ。1曲目ワーグナー「さまよえるオランダ人」2曲目ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲。神尾真由子氏の演奏は圧巻で、まさに「こ

の才能はただただ神から授けられたとしか言いようのない」と絶賛されたのも頷ける。3曲目はシューマンの交響曲第2番。2曲目でかなりの集中力と緊張感を強いられたせいか第4楽章は少し疲労感が漂っていたが、指揮者との一体感が伝ってきて初めて山響を聴いた私には快い興奮の残る演奏会であった。各地から集ったファンクラブの方と共にバスで移動。ホテルの総会会場へと向かう。2年前設立総会を札幌で開いた折には、仙台、山形、群馬、広島からの参加であったが、仙台総会を経て金沢、名古屋の2団体が加わり7団体100名ほどが参加しその拡がりを見せている。各クラブの活動報告があり、来年は群馬で開かれるようだ。かつて「ここに泉あり」の映画で知られた群響。「今迄はそれで持って来ました。タイトルさえも知らない人が多い中、これからの群響の力が試されています。」との言葉は札響とほぼ同じ時代を歩んできた歴史を見る思いがした。ステージ付きの広い交流会場に移動。山響管楽器奏者によるファンファーレに迎えられ、和やかで楽しい懇親会。「我々はサービス業です。」という飯森指揮者を囲む団員が20名ほど参加。各クラブがステージに上がり個々紹介される。山形市長代理、山響理事長も挨拶。楽員の演奏もあって、指揮者、楽員、ファンとの一体感がとても嬉しく、ゆっくりと



した生活の流れの中に心に灯がともるような暖かい気分になることができた。そして山響パンフレットの中に来年11月200回を迎える記念定期演奏会の曲目に、夫の幼馴染で数年前鬼籍に入られた佐藤敏直氏の作品があることに感動したのである。翌朝、山形新聞にカラー写真入り3段抜きでその様子が掲載されているのをゆっくり読みながら朝食。帰路、昨日とは異なり、真白に雲を頂いた月山を臨み澄みきった空気の中、各地のプロオーケストラの特色のある演奏がその土地の人々にいかに支えられているかを嘸みしめ、我札響の洗練された響を反芻し、札響ファンが一人でも増えることを願わずにはいられない旅であった。
 (副会長 鈴木美保)



JOFC 第2回総会 報告

11月23日に行われたJOFC（日本プロオーケストラファンクラブ協議会）第2回総会（山形大会）の一日をお知らせします。

【山形交響楽団 第192回定期演奏会】

14:00開演 山形テルサホール
指揮 飯森 範親（山響音楽監督）
独奏 神尾真由子（ヴァイオリン）
コンサートマスター 高木 和弘
ワーグナー／歌劇「さまよえるオランダ人」序曲
ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲ニ長調
シューマン／交響曲第2番ハ長調

開演前に指揮の飯森さんによる、プレトークがありました。この日演奏する3曲についての解説のほか、金管楽器の古楽器を購入した



【JOFC 第2回総会】

時間 17:00～18:30
会場 山形国際ホテル
3階富士・西

司会による開会の後、上田会長より挨拶がありました。

「JOFCは、まだできて間もない会です。いずれのファンクラブも地元のアオーケストラを大事にしていきたい、それを形にしてゆくという思いでそれぞれの地で支援が始まったわけですね。それを全国のレベルで意見交換しながらも、よい活動が出来ないものか、そんな思いでこの会ができたわけですね。首都圏を除いて、わが町のプロオーケストラを持っているのはわずか10か11の都市しかありません。私たちはただのファンではなく、もっと力強く支援していこう、仲間を増やそう、オーケストラを磐石にする基盤をつくっていこうというのが主旨だと思っています。今日は各ファンクラブの活動報告があります。真似できるところは真似し、教えられるところは教え、たくさん成果を持ち帰ってほしいものです。」

加藤聡山響ファンクラブ会長より歓迎のご挨拶後、今日の指揮者の飯森範親さんより基調講演があ



ことについての報告と、実際に、現代楽器と古楽器との違いをホルン、トランペット、トロンボーンのア奏者が演奏し、音色や響きの違いを体感しました。

終演後はロビーで飯森さんと、この日のゲストの神尾真由子さんのインタビューが行われました。お二人とも、インタビューの質問に対し、熱心にお答えになっているのが印象的でした。

りました。

「私ども山形交響楽団の演奏会にいらしていただき、ありがとうございます。今日お話ししたいのは、私もそうだし山響のメンバーもそうですが、音楽家は基本的にサービス業でなくてはならないということです。今クラシック音楽が、少しずつではありますが生活の中に入ってきている感じがしています。その中で、音楽家やオーケストラが存在するのは、聴衆があるからこそということをお忘れてはいけません。音楽家のおごりがクラシック離れを起こすことになるし、それを取り戻すのはすごく難しいことです。私たちは常に新

【懇親会】

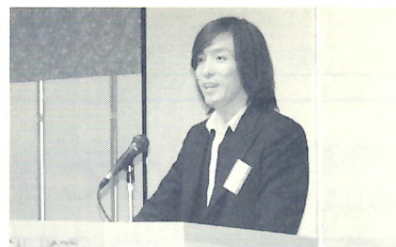
時間 18:45～20:30
会場 山形国際ホテル
3階富士・東

会場が隣の部屋に移動になりましたが、山響金管アンサンブルが山笠音頭でお出迎えしてくれました。総会に出席した各ファンクラブのメンバーのほか、山響の団員さんも多数、出席していただきました。お料理も名物の「芋煮」やお蕎麦をはじめ、おいしいもの数々に舌鼓を打ちながら、和やか



【参加ファンクラブ】

札響くらぶ
仙台フィルハーモニッククラブ(SPC)
山響ファンクラブ
群響ファンズ
広響フレンズ
名フィル・ファンクラブ
石川県立音楽堂「楽友会」



しいことに挑み、聴衆に期待感を持たせ続ける、そして私たちも成長し続けることが大切です。クラシック音楽が東京以外から熱くなれば、全国のオーケストラが盛り上がります。そのためには、ぜひお力をお貸し願いたいと思います。」

その後、武藤札響くらぶ事務局長はじめ、各ファンクラブの代表の方から順次活動報告があり、最後に山響ファンクラブの事務局長伊藤真一さんより「音楽を聞かせてもらう喜びをボランティア活動のモチベーションとして、いい音楽を聴かせて頂く事に感謝すると共に、ファンクラブ同士で情報交換を行いながら、自分たちの活動に誇りと自覚をもって行動することで、音楽文化に貢献していくよう努力する」との宣言がありました。時間を越えての総会でしたが、実りの多い総会となりました。

に会は進行しました。高木コンマ率いる四重奏や、金管五重奏の演奏があり、その後、各ファンクラブの紹介が行われました。札響くらぶも全員がステージに上がりおのの自己紹介となりました。最後は全員で記念写真を撮り、懇親会はお開きになりました。



還暦をお祝いしました

今年6月に上田文雄「札響くらぶ」会長は、60回目のお誕生日を迎えられました。その還暦のお祝いを、9月12日、ダイニング『イル・ネージュ』において行いました。公務がお忙しい中、9月まで延びのびになっていましたが、札響からも尾高忠明札響音楽監督、伊藤亮太郎コンサートマスターはじめ西村専務理事、宮沢事務局長、宮下事業部長が、また季刊ゴッシュ代表の横山さん、竹津宜男さんの奥様、道新の青木記者がお祝

いに駆けつけ、スタッフ一同とともに華やかに開催となりました。

この日、ご夫妻でお見えの会長には、札響くらぶからお祝いの花束とお祝いの品をお二人に、シェフからはバースディケーキならぬご飯にマグロをのせたケーキ(?) (写真で確認) が贈られました。このケーキは大変好評(ヘルシーですごくおいしい!!)で、会長はもちろんのこと伊藤コンマスもかぶりつき(写真で確認)、満足した様子で舌鼓を打ってお



れました。

おいしい料理とおいしいお酒にかこまれて会話も弾み、英国生活の長い尾高音楽監督はウェールズ語についての蘊蓄も語られて、終始笑顔の会長ご夫妻でした。参加した全員からは、一人ずつ思いのお祝いの言葉や会長にささげる詩の朗読もあり、その後、会長ご夫妻はお礼の言葉を述べられました。尾高音楽監督の指揮のもと、みんなでハッピーバースディを大合唱し、楽しいお祝いの会もお開きになりました。なお、このときの写真は「札響くらぶ」ホームページの事業案内にたくさん掲載されています。



リハーサル見学会を開催

定期演奏会のリハーサル見学会を本番前日となる11月13日(木)に開催しました。札響くらぶ主催としては久しぶりの実施であり、私としては初めてのキタラでの見学会でした。演奏会スケジュールの都合上、平日実施となってしまいますが、それでもスタッフ含め35名の参加となりました。

予定の10時45分には尾高さんが舞台上に登場され、早速エルガーの交響曲第3番第1楽章から演奏開始です。指揮台の上には椅子が用意され、座って振り始めたものが途中からは何度も乗り出して大きな振りになります。本番さながら

の熱演や、時折はさまれる細かい指示にも緊張し、こちら側はあまり身じろぎもせず終始真剣に聴き入っていました。

参加者はホール2階のCBブロック席にまとまったの見学でしたが、以前行われていた芸術の森アートホールの取り囲んだ上部座席よりも集中して聴けたように思います。ただ指示されている言葉の内容がハッキリとは聞き取れない位置ではありましたが、「ここはしっかりと」「クレッシェンドを大きめに」などと細かいフレーズに対する尾高さんの想いがそこに伝わってきました。また、パート毎の演奏があったり、テンポのちょっとした違いで何度も同じ部分が演奏されたり・・・とリハーサルならではの場面に同席できたことは、1曲を全体通して聴くのと違って特に印象に残りました。

エルガーの交響曲第3番は昨年



キタラで収録されたCDも発売されています。それと聞き比べるのも一興だと思いますし、エルガー本人が作曲した部分とペインが補筆した部分はどこなのだろうかということにも思いが及びました。

途中15分の休憩をはさんで当日前半の午後1時までの見学会でした。力強い第1楽章～繊細で可愛い第2楽章～重厚な第3楽章・・・残念ながら最後まで聴くことができませんでしたが、翌日以降、定期演奏会鑑賞に臨んだときには、参加者は全員いつもとは違う聴き方になったのではないかと思います。

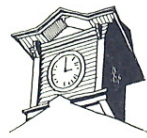
(長屋純子)



札幌物語 44

(500回定期をめぐって)

「停電」(その1)



札幌のホームグラウンド、北海道は半年雪に埋もれる積雪寒冷地である。「雪でのキャンセルは毎年何回くらいありますか」とよく聞かれる。間もなく50年を迎え6000回を超える演奏回数をこなしてきているのに幸いなことに1度しか経験していない。

キャンセル公演ではないが演奏会の最中やリハーサルの時に3回も「停電」を経験している。演奏中の停電を初めて経験したのは創立5年目に入った、1965年10月27日、秋田県民会館での演奏会、「札幌東北特別演奏会」の初日、秋田音楽文化連盟主催の演奏会だった。通路に赤い絨毯を敷いた座席数1800余りの立派なホールはほぼ満員だった。初代常任指揮者、

荒谷正雄の指揮でプログラムは第1部がシベリウスの交響詩「フィンランディア」とモーツァルトの交響曲第35番「ハフナー」、そして第2部はドヴォルザーク作曲交響曲第9番「新世界から」。第2部の「新世界から」が始まり第1楽章の終わり近くになって突然ステージも客席も真っ暗になった。「新世界から」は前年5月の第29回定期演奏会で初めて取り上げられ、まだ歴史の浅い札幌が得意とするレパートリーとは言えなかったが、指揮者も楽譜も全く見えない暗闇の中で第1楽章をそのまま終わりまで演奏したのだった。真っ暗なステージの上で楽器を持って移動するのは非常に危険なので楽団員は第1楽章が終わって

もしばらくはそのままステージ上に留まっていた。演奏が止まってから客席も「どうして電気が点かないのかしら」などとざわざわし始めたが動く人はいなかった。ホールの係員が懐中電灯を持ってステージに現れ指揮者をステージサイドへ導いたが楽器を持った楽団員は暗い中で動くのは危険だったし、1800人の聴衆も騒ぎにならないで静かに点灯を待っていた。随分長い時間待たされたと思ったが後で聞いたら20分位だったそう。灯りが点いた時拍手は起らなかったが一斉にホーっとため息がもれた。再び指揮者、荒谷正雄が登場してあらためて「新世界から」を最初から演奏し大喝采を浴びた。停電の原因はホール近くの電柱に自動車衝突して電柱が根元から折れて断線したためだった。

札幌が初めて航空機で移動した演奏旅行でもあった。

(竹津宜男)

札幌に新しい仲間が加わりました

12月は4名の方が退団なされましたが、新たに4名の方が入団されました。お名前と簡単な経歴を皆さんに知らせします。顔と名前を覚え、力いっぱい応援しましょう。

なかむらなみこ

中村菜見子 (ヴァイオリン)

11月1日入団

千葉県出身。東京芸術大学ヴァイオリン専攻卒業。在学中に日本クラシック音楽コンクールなどで上位入賞。アジア・ユース・オーケストラメンバーとしてヨーロッパツアー、カナダ・アメリカツアーに参加。ヨーロッパでの夏季音楽セミナーに参加する。卒業後フランスへ留学しパリ市19区立音楽院で学ぶ傍ら、パリ・オペラコミック座のオーケストラで研修を行う。これまでに茂木桂子、吉川朝子、大島晶子、瀬戸瑤子、松原勝也、マティス・ヴァイツネル、ニコラ・ドートリクールの各氏に師事。

ざるわたり
猿渡

たすく

輔 (チェロ)

11月1日入団

千葉県出身。東京音楽大学、同大学院科目履修弦楽器研究科を修了。サントリーホール主催「レインボー21デビューコンサート」に出演。大友直人、アラン・ギルバートの両氏が芸術監督を務める

国際室内楽講習会MMCK

(ミュージック・マスターズ・コース in かずさ)をはじめ、国内の様々な講習会に参加。これまでにチェロを佐久間豊春、堀了介、ドミトリー・フェイギン、岩崎洗の各氏に室内楽を大野かおる、河合訓子、堀了介の各氏に師事。毛利伯郎、チャバ・オンツァイ、ルトヴィート・カンタ、ルイス・クラレットのマスタークラスを受講。

とみたまいこ

富田麻衣子 (ヴァイオリン)

12月1日入団

大阪教育大学卒業、同大学院芸術文化専攻修了。西宮市主催新人演奏会、京都音楽祭「デビューコンサート」などに出演。第8回クラシックコンクール全国大会入選、第5回TIAAコンサートにて、審査員賞を受賞。2006、2007年PMFに参加し、首席奏者を務める。旭川・ウィーン国際弦楽セミナー、第16回京都フランスアカデミー、ヴィオラスペース2006、武生国際音楽祭2008などのマスタークラスを受講。レオン・シュピラー、レジス・パスキエ、ステファン・

ピカールの各氏のレッスンを受講。これまでに曾我部千恵子、小谷公子、稲垣美奈子、稲垣琢磨の各氏に師事。

こばやし みわこ

小林美和子 (ヴァイオリン)

12月1日入団

東京芸術大学卒業、ドイツ・ケルン音楽大学大学院修了、同大学で音楽教育学も学ぶ。大阪市姉妹都市親善使節ユージェントオーケストラのソリストとしてレニングラード(現サンクトペテルブルク)、ミラノの演奏会に出演のほか、千葉フィル他国内オーケストラとも協演多数。ベートーヴェンハレオーケストラ・ボンのヴァイオリン奏者、ドイツ・オズナブリュッカー・シンフォニーオーケストラの第2ヴァイオリン首席奏者を務める。ヨーロッパ各地の音楽祭や講習会にも多数参加。これまでに澤和樹、海野義雄、ゲルハルト・ボッセ、ヴィクトール・トレチャコフ、ゴリヤン・コシュータの各氏に師事。

1・2・3月 札幌定期のききどころ ～定期演奏会を満席に～

今後の札幌定期のききどころを札幌くらぶ会員に語っていただきました。2月には伊藤亮太郎コンサートマスターが、3月はチャイコフスキーコンクールを征した若き才媛がヴァイオリン協奏曲を聴かせてくれます。交響曲のラインナップも飯守さんの指揮による「オルガン付」、尾高監督お得意のブルックナー、ドイツ正統派巨匠による「田園」と聴きどころ満載です。皆さんもお友達を誘って定期演奏会に出かけましょう。私たちの手で定期演奏会をいつも満席にしましょう。

■第515回定期演奏会
 1月23日(金)19:00～ 24日(土)15:00～
 指揮：飯守泰次郎
 独奏：横山幸雄 (ピアノ)
 曲目：ワーグナー／歌劇「さまよえるオランダ人」序曲
 伊福部昭／ピアノとオーケストラのための「リトミカ・オステイナート」
 サン＝サーンス／交響曲第3番「オルガン付」

■第516回定期演奏会
 2月6日(金)19:00～ 7日(土)15:00～
 指揮：尾高忠明 (札幌音楽監督)
 独奏：伊藤亮太郎 (札幌コンサートマスター)
 曲目：プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲第2番
 ブルックナー／交響曲第4番「ロマンティック」

■第517回定期演奏会
 3月20日(金・祝)19:00～ 21日(土)15:00～
 指揮：ハンス＝マルティン・シュナイト
 独奏：神尾真由子 (ヴァイオリン)
 曲目：ブラームス／ヴァイオリン協奏曲
 ベートーヴェン／交響曲第6番「田園」

※ 次号は、4・5・6月定期を載せる予定です。皆さんの思いをお寄せ下さい。

伊福部昭が札幌定期に登場。映画『ゴジラ』の音楽で有名な伊福部は北海道が生んだ大作曲家である。アイヌの土着の音楽をテーマとした作品も多く、先の『ゴジラ』のメロディが現われる「SF交響ファンタジー」など親しみやすい曲も多いので、札幌でどんどん演奏してもらいたいと思っている。オステイナートは反復の意味で旋律、伴奏、リズム・パターンが反復される。また、5拍子、7拍子(俳句・短歌の5音・7音による)が多用されているのも特徴。実際の伝統音楽にはないが、日本人の心を表現しようとしているように思う。今回はぜひ『シンフォニア・タブカーラ』を。

『ロマンティック』がついに登場です。実は、少し前までの札幌のブルックナーには、ちょっと不満を感じていました。マーラーはいいのにどうしてブルックナーは…と思っていたのです(札幌さん、ごめんなさい)。しかしここ数年の充実ぶりはどうでしょう。金管の響の輝きとともに、身震いするほどの演奏です。そして、ついに4番の登場。これを聞き逃す手はありません。寒い寒い冬の日、これを聴いて熱くなりましょう。

神尾真由子さん、大好き!! と叫んでいるのは私だけでしょうか。あのNHKでも追っかけ番組を2本放送しましたよね。その発言は自由奔放、先生のアドバイスにも自分を貫く姿勢は、若者はこうでなくちゃと感じさせます。実は彼女、15くらいかときに札幌と協演していますよね、同じブラームスで。あの時は清楚な感じで(まだ、子供でしたから)、可能性を感じさせる演奏でした。それが、どのように開花しているのでしょうか。実は去年、函館で凱旋リサイタルがありました。そのときのプーランクのソナタは、はつらつとした演奏で実によく歌っていました。これほどよくヴァイオリンを鳴らし、歌う演奏が札幌とどのような演奏をかもしだすか。お勧めですよ。

楽員さん出演 コンサート案内

詳しくは札幌くらぶホームページで

今号のプレーヤーズトークに登場の坂口さん所属のトリオ・ダンシュ札幌、廣狩さん所属のトリオ・レイラのコンサートが今月、登場します。お話を伺った際、ご両人ともこのコンサートにかかる意気込みが強く感じられました。皆さんも、お友達をお誘いの上、会場に足をお運び下さい。

■トリオ・ダンシュ札幌 Vol.7
 「4つの木管の響き」
 12月18日(木) 19:00開演
 場所 札幌コンサートホール キタラ 小ホール
 出演 坂口 聡 (札幌ファゴット首席)
 宮城完爾 (札幌オーボエ首席)
 三瓶佳紀 (札幌クラリネット首席)
 ゲスト：高橋聖純 (札幌フルート首席)
 曲目 A・フレジエ／トリオ
 A・ウェーバー／トリオ・ダンシュ (委嘱作品)
 木村雅信／トリオ・ダンシュのための「チンク・タンク」(5つの舌) 他
 料金 3,000(一般)、1,000(高校生以下)
 問合せ オフィス・ワン 011-612-8696

■Trio RAYLA Concert Vol.1
 12月19日(金) 19:00開演
 場所 ザ・ルーテルホール
 出演 弦楽三重奏団「レイラ」
 鎌田 泉 (ヴァイオリン)
 廣狩 亮 (札幌ヴィオラ首席)
 廣狩理栄 (札幌チェロ首席)
 ゲスト：金子 薫 (ピアノ)
 曲目 ベートーヴェン／弦楽三重奏曲作品9-2
 ドホナーニ／弦楽三重奏曲作品10「セレナード」
 シューマン／ピアノ四重奏曲 作品47
 料金 3,000(一般)、2,000(学生)
 問合せ アドビューロー 011-271-4225

曲目 ヘンデル／ヴァイオリンソナタ第1番
 ジュリアーニ／協奏風二重奏曲
 ヴィラ＝ロボス／ブラジル民謡組曲より
 ビアソラ／オブリヴィオン(忘却)
 「タンゴの歴史」から

料金 3,500
 問合せ アドビューロー 090-2697-7610

■三上亮&益田正洋 デュオリサイタル2009
 1月31日(土) 16:00開演
 場所 ザ・ルーテルホール
 出演 三上 亮 (札幌コンサートマスター)
 益田正洋 (ギター)

■石川祐支 チェロ・リサイタル
 3月26日(木) 19:00開演
 場所 札幌コンサートホール キタラ 小ホール
 出演 石川祐支 (札幌チェロ首席)
 杉野順子 (ピアノ)
 曲目 カザド／親愛なる言葉
 マスネ／エレジー
 リゲティ／無伴奏チェロソナタ 他
 料金 3,500
 問合せ オフィス・ワン 011-612-8696

Player's talk 2

ファゴット首席奏者
さかぐち
坂口
さとる
聡



——ご出身は

生まれは函館です。父の転勤の関係で道内何箇所か移りました。楽器との出会いは高1のときです。実は父が高校の吹奏楽部の顧問でした。指導をしていたわけではないのですが、その顧問の息子がいるぞということで誘われて入部しました。音楽を聴くことは好きだったのですが、それまでピアノも習ったことがなかったので、初めての楽器でした。僕のように楽器のスタートが遅い人間も珍しいと思いますね。

——音楽家になろうと考えたのは

高2のとき、転校することになり吹奏楽部はやめてしまいました。でもファゴットを吹くのは楽しくて、上手くもなりたいし、音大へも進学してみたい。そこで、前の学校の先輩が国立音大でファゴットを専攻していたのでその先輩に相談したのです。音大のすばらしさをたくさん教えてくれました。私は以前から英語も好きで、はやく海外へ行きたかったので、音楽を勉強することが海外へ繋がるだろうとも考えたのです。それで、高2・高3のときは音大へ入るための猛勉強をしました。友達が英語や数学の受験勉強をしているときに、これが受験勉強だと思ってファゴットはもちろん、ピアノや聴音などを猛特訓しました。

——学生時代は

国立音大に無事に合格できました。それまで私は受験のための音楽を勉強してきたのですが、入学するとそれが全く通用しないんですね。また一からのリスタートで、とにかく練習するしかありませんでした。ですから、学生時代は下宿と学校の行き来だけの単調な生活でした。語学の勉強も続けていました。留学するための準備もしていて、卒業とともにオーストリアへ留学しました。ウィーンとザルツブルグであわせて2年弱勉強しました。

——札幌入団の経緯は

卒業少し前に両親に電話しました。日本のオケでどこかに空きがないかなと。すると、札幌のファゴットの募集があるよと。えっ、それじゃ受けてみよう。丁度、戸澤さんが退団されてファゴットが空席だったのです。それであま

り様子もわからないうちにオーディションを受けました。課題曲の一つがモーツァルトというのもラッキーでした。留学地がザルツブルグだったのでモーツァルトは本当に鍛えられました。なにせ、モーツァルトの生家がアパートのすぐそばなんです。それで、卒業試験に向けてモーツァルトをがんがん吹いていました。確か、卒業試験が1月28日で入団が2月1日だったと思います。

——札幌に入団してみた

実は札幌についての予備知識はほとんどなかったのです。小さな頃、音楽教室で札幌を聴いたくらいです。それで、私にとっては初めてのプロのオケだったので、最初は本当に必死でした。まだ24の小僧だったので、最初の3年は生きた心地がしなかったですね。365日、全部新鮮かったですから。また、怖い先輩もたくさんいて。相当鍛えられましたが今は本当に感謝しています。

——印象に残る演奏は

どの指揮者とはいえませんが、ヨーロッパ的な感覚で音楽が出来るときは印象深いですね。音楽の流れとか歌わせ方とか、音楽を構築していく中で音がガラッと変わるんです。もちろん国籍は関係ないのですが、たとえば西洋人と東洋人の考え、表現の入り口の違いとか・・・全体的な音楽の感じ方から入り、形もしっかりと出来ていく。それが懐かしいし、演奏者と聴衆が一体となり音楽の喜びを体感できたことは、今までにも何度もありましたが、やはり印象に残ります。比較的、西洋人にはそういう方が多いように思います。普段のおしゃべりや身振りから音楽が伝わってくるのですよ。

——ファゴットの魅力は

ファゴットほどいろんな役が出来る楽器はないと思っています。役柄としては低音担当なのですが、ハーモニーも出来るしソロもしっかり出来る。コミカルな音や力強い音など音色の変化とか役柄の変化とか多様な役割を楽しめる楽器です。いろいろな役割を演じ分けなきゃならないし、キャラクターも自分で作り上げるわけで、そこが難しいところですよ。

——オーケストラ以外の活動は

ソロやアンサンブルはダイレクターに自分の表現を作れ、楽器の特性を一番楽しめる場ですね。編成が小さいことで楽器の面白さがじかに伝わるんですね。だからこそより表現の細かさを勉強することになります。また、ソロの場合は完全に自分の思いを楽器を使って伝えることになる、そういう意味では指揮者に近いと思います。



——ご趣味は

映画が好きですが、最近あまり閑がなくて劇場には行けません。でも、子どもに連れられて子供用のものは観ますね。それと最近、飛行機に興味があります。操縦はまだしていないんですが、いずれしたいと思っています。夢ですね。モーターグライダーというのがあります。小型飛行機とグライダーの中間のようなものですが、それに興味があります。夏場にまずは何度か搭乗してみましたが、将来の夢として一生の内には道内を自分の操縦で飛んでみたいですね。

——札幌くらぶに一言お願いします

いつも札幌を見守って下さって、応援していただいて、一番心強く思っています。私たち札幌とともに北海道の文化を高めていただいているので、本当にありがたいと思います。私たちもその応援に答えるように一生懸命努力をしますし、刺激もたくさんいただいています。ファゴットが弦楽器と管楽器のつなぎの役であるように、札幌とまだクラシックに関して初心者である方たちとのつなぎ役に尽力をいただければと思っています。これからも応援をお願いします。

(中山正治、松尾英樹)

2009シーズンの定期演奏会の予定が発表されました。日程と指揮者・独奏者をお知らせします。次年度も魅力的なプログラムになっています。まだ、定期会員でない方は定期会員の申し込みを、会員の方はお友達を誘って、定期演奏会の会場を私たちの手で満席にしましょう。

2009.4～2010.3 札響定期演奏会プログラム

■第518回定期演奏会

4月17日(金) 19:00 18日(土) 15:00
指揮：ラドミル・エリシュカ(首席客演指揮者)
独奏：木嶋真優(ヴァイオリン)
曲目：ヤナーチェク/組曲「利口な女狐の物語」
モーツァルト/ヴァイオリン協奏曲第3番
ドヴォルジャーク/交響曲第7番

い航海」
ハイドン/交響曲第101番「時計」
ベートーヴェン/交響曲第7番

■第519回定期演奏会

5月29日(金) 19:00 30日(土) 15:00
指揮：尾高忠明(音楽監督)
チェロ：石川祐支(札響首席奏者)
ヴィオラ：廣狩亮(札響首席奏者)
曲目：モーツァルト/交響曲第41番「ジュピター」
R・シュトラウス/交響詩「ドン・キホーテ」

■第523回定期演奏会

11月13日(金) 19:00 14日(土) 15:00
指揮：尾高忠明(音楽監督)
独奏：ガイ・ジョンストン(チェロ)
曲目：エルガー/序曲「フロワッサール」
チェロ協奏曲、エニグマ変奏曲

■第520回定期演奏会

6月12日(金) 19:00 13日(土) 15:00
指揮：高関健(正指揮者)
ソプラノ：針生美智子
テノール：高橋淳
バリトン：堀内康雄
合唱：札響合唱団、札幌アカデミー合唱団、
HBC少年少女合唱団
曲目：メンデルスゾーン/交響曲第4番「イタリア」
オルフ/「カルミナ・ブラーナ」

■第524回定期演奏会

12月11日(金) 19:00 12日(土) 15:00
指揮：廣上淳一
独奏：ニコライ・ルガンスキー(ピアノ)
曲目：ショスタコーヴィチ/交響詩「十月革命」
ラフマニノフ/ピアノ協奏曲第2番
ストラヴィンスキー/バレエ音楽「火の鳥」

■第521回定期演奏会

9月18日(金) 19:00 19日(土) 15:00
指揮：尾高忠明(音楽監督)
独奏：アンドレア・ルケシーニ(ピアノ)
曲目：モーツァルト/ピアノ協奏曲第24番
プルックナー/交響曲第5番

■第525回定期演奏会

1月29日(金) 19:00 30日(日) 15:00
指揮：ジョセフ・ウォルフ
独奏：ヴィヴィアン・ハーグナー(ヴァイオリン)
曲目：ベルリオーズ/序曲「海賊」
メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲
シベリウス/交響曲第2番

■第522回定期演奏会

10月16日(金) 19:00 17日(土) 15:00
指揮：ゲルハルト・ボッセ
曲目：メンデルスゾーン/序曲「静かな海と楽し

■第526回定期演奏会

2月26日(金) 19:00 27日(土) 15:00
指揮：高関健(正指揮者)
独奏：工藤重典(フルート)
曲目：モーツァルト/フルート協奏曲第1番
ショスタコーヴィチ/交響曲第8番

■第527回定期演奏会

3月19日(金) 19:00 20日(土) 15:00
指揮：尾高忠明(音楽監督)
曲目：三善晃/交響三章
ラフマニノフ/交響曲第2番

意見・感想をお寄せ下さい

会員の皆さんからの投稿をお待ちします。内容は問いませんが、以下項目に関するご意見が特にお待ちしています。
① 来年から復活する「札響くらぶお楽しみコンサート」で演奏してもらいたい曲目、またはオリジナルな企画
② 札響くらぶ主催でやってもらいたいイベント
③ 「札響定期のききどころ」欄への投稿
④ 会報の感想や会報に取り上げてもらいたい記事

特に投稿の期限はありませんが、1月31日までに投稿してください。1月中から、抽選でプレゼントの差し上げます。なお、当選は商品を送る品もつけてかえさせていたください。
① プレゼント商品
② 3月の札響定期演奏会のS席チケット(3名様)(座席の指定はできません)
③ 廣狩理栄さんのサイン入り色紙(2名様)
④ 坂口聡さんのサイン入り色紙(2名様)
④ 坂口さんが所属するトリオ・ダンシユ・サッポロのCD(3

名様)
投稿は、ハガキ、封書またはEメールでお送り下さい。なお、その際必須事項を必ずお書き下さい。

必須事項

住所・氏名・会員番号・希望のプレゼント商品の番号。なお、匿名希望の方は、「匿名希望」または「ペンネーム」をお書き下さい。(あて先は会報の題字の下にあります)

編集後記

1面にもありますがJOFCの総会が山形で開催されました。今回は新たに名フィルファンクラブ、石川県立音楽堂「楽友会」(オーケストラ・アンサンブル・金沢を支援している)も参加となりました。地方のオケ

は問題を抱えている場合もあり、我々も情報交換をしながらオケを支えていきたいと思っています。札響くらぶはその中心的存在として、これからもJOFCにかかわっていきます。趣旨に賛同の方は是非我々と一緒に、スタッフとして活動してみませんか。
さて、45号をお届けします。

練習見学会、JOFC参加と札響くらぶの行事が続く、この号がお手元に届く頃には札響団員さんとの交流会(12月6日実施)も終わっているかと思えます。会報を通して、行事の様子が伝わることを願っています。
(松尾英樹)